

三陸の海を
放射能から守る岩手の会
ミニコミ通信

第1号

止めよう！ 《再処理》

2005（平成17）年
6月13日発行

連絡先事務局
電話・ファックス
019-692-4759

三陸の海を放射能で汚さないで！

再処理工場と三陸の海

水口憲哉教授講演会 100人結集

「再処理工場と三陸の海」と題する東京海洋大学名誉教授、水口憲哉先生の講演会は、五月八日、盛岡市「おでつて」大ホールで約一〇〇人が集まり開催された。盛岡市民の他に、沿岸部漁業関係者も多数来場した。

水口教授は、イギリスのセラフィールド再処理工場と比較しながら、青森県六ヶ所村再処理施設が今世紀最大の海洋汚染になりうる、様々な資料から説明し、今のうちに中止するよう訴えた。



【水口氏講演要旨】

かつてない規模の 海洋汚染のおそれ

私は昔大槌町に住んだことがあり、岩手のリアス海岸を利用した養殖漁業のすばらしさをよく知っている。

青森県六ヶ所再処理施設の問題が二〇年前提起された時から、学生達に「これだけ大きな海洋汚染はあり得ない。人生最大の問題なのだ」と訴えてきた。

再処理工場では除去出来ない分の放射能廃液を放流管というものから海に流す。青森県の再処理工場の放流管は沖合三キロで水深五十メートルの海底から海水中に放出する。茨城県東海再処理工場は年間二一〇トン进行处理する規模であるが、六ヶ所工場はその四倍近い八百トンという計画である。日本原燃の「事業許可申請書」によると、放出放射能量は一日平均九五八TBq（テ

ラベクレル）で、これは例えば大飯原発の一年間の排出量とほぼ等しい。原発は日常的には放射能を出さないことを目標にしているが、再処理工場は放射能を垂れ流すことを前提にしている。

放出廃液は

岩手にも流れ着く



（ハガキで実験しました）

放射能を帯びた廃液は海に流せば拡散し消えたように見える。しかし、数千万年、数億年も放射能が消えない核種が多く、生物に思いがけない被害を与える。二〇〇二年八月末、配水管予定地の海面から、市民団体が、海に浮くように作られた漂流調査用の黄色いハガキを一万枚海に流した。予想のように、北海道苫小牧から千葉県千

倉町までの海岸から漂着の便りがあつた。岩手では、普代村と山田町から返事があつた。「申請書」では、廃液は沖合に流れるようにシミュレーションしているがハガキ調査では、岩手の沿岸などに沿って南下することを示している。

アイリツシユ海と北海 は放射能物質だらけ

ヨーロッパで再処理が稼働しているのは、フランスのラ・アーグとイギリスのセラフィールド（旧ウインズケール）であるが、汚染が酷く、北海や周辺海域は広く放射能に汚されている。一九八八年のアザラシの大量死は実に無惨であったが、放射能汚染と関係があると言われている。工場周辺では子供の白血病が多発している。イギリス人が、日本人並みに魚を食べるなら、放射能の被害はもっと顕著なものになるだろう。幸い（？）イギリス人は日本人の十分の一しか魚を食べない。

養殖の盛んな岩手の
被害は計り知れない

岩手県はリアス式海岸でホタテ、ワカメ、海苔などの養殖、アワビ、ウニ、ホヤ、さらにはサンマ、サケなどの漁業が盛んな所である。数億年にもわたって強力なアルファ線を出すプルトニウムや、水に溶けやすいセシウムなどの放射性物質が、プランクトンや海藻に付着し魚を経て人間の体に入り放射線が細胞に被害をもたらす。体内被曝は動物の細胞や遺伝子を破壊し、取り返しのつかない危機をもたらす。このきれいな三陸の海を放射線で汚してはならない。今のうちに「再処理」をストップさせよう。

本格的な「使用済み核燃料」の再処理を行う「アクティブ試験」を行うために、本年十一月に「安全協定」を結ぶという。再処理に「安全」はありえない。今からでも遅くない。みんなで、異議あり！の声をあげよう。

(まとめ) ○

4万7千人分の 経口致死量に相当

「事業申請書」(日本原燃)から算出

事業者の日本原燃は規制値すら設けず垂れ流すことを前提として、六ヶ所村再処理工場の廃液の放射線量の年間放出値を発表している。トリチウム、コバルト60 ストロンチウム、ヨウ素129など19種ごとの値であるが、これにもとづいて《実効線量》総量を計算してみた。1年間に 3.34×10 の8乗ミリシーベルトと出た。原子力委員会は1人で7シーベルト以上全身被曝をすると100%死亡すると認めているので、この値で割ってみると、これは、4万7700人分の経口致死量に相当する。

滝沢のRMCの発表数値でも計算してみたが、現RMCの0.4人分、中止させた新RMCの4.3人分と比較して如何にもすごい量の放射能廃液が流されるか明らかである。(N)

(注)核種ごと1ベクレル当たりの「実効線量」は、「原子炉規制法・告示・別表2」の数値による。「経口摂取」は「全身被曝」と同じ状況になる。



建設進む六ヶ所再処理工場

桐生広人 2001年撮影

年間最大処理能力 800ト

一日あたり最大処理能力 4.8トU

水口憲哉先生の

三陸の海を放射能で汚すなとー

五月八日、盛岡の水口憲哉先生の講演会を聞いた人々を中心に、沿岸地区で、六ヶ所再処理工場と三陸の海をテーマに講演会を企画しようという声が上がっている。盛岡での講演会の総括会議では、沿岸でこそ講

演会が必要であると、してさつそく具体的な計画が話し合われた。現在、水口先生のご都合など連絡をとっているが、九月一〜三日頃に、久慈・宮古・気仙地区の三箇所によるリレー講演会が出る。来ないものか検討中。六月二十四日(金)宮古で準備会がもたれる。

《お知らせ》
講師を派遣します。

各地で学習会をする場合、当会として講師を派遣します。これまでに、環境運動や反核運動を担ってきた人を紹介します。相談下さい。

【連絡先】

電話 〇一九

(六九二)四七五九

当会 事務局

みんなが学習を
本や資料を集めよう



○「ガッテン」再処理

市民ハンドブック

グリーンアクション刊

電話〇七五七〇一七三三

FAX〇七五七〇一九五二

○「放射能汚染に反対し再処理を止めよう」(パンフレット)

美浜・大阪・高浜原発に
反対する会刊

電話〇六一六三六七一六五八〇

FAX〇六一六三六七一六五八一

○「セラフィールド ラーナー
グに生きる人々」

「世界は脱原発に向かう」

「食卓にあがった死の灰」

「チェルノブイリ事故
による食品汚染」

パート①②③

原子力資料情報室刊

電話〇三三八四三〇五九六

FAX〇三三八四三〇五九七

○「核の再処理ハンドブック」

「核の再処理が子ども達
をおそう フランスから
の警告」

グリーンピースジャパン刊

電話〇三一五三三八一九八〇〇

FAX〇三一五三三八一九八一七